

〔寛永諸家系圖傳 二百六十一〕柳澤

幕紋、一階傘、

〔萬世家譜 一上〕山名主殿

代々三ツ引に、下に山の字旗紋付來候處、神君上意に三山は唱へ惡し、二引に可致旨、依之旗紋、二ツ引に山の字付申候、

〔白石子筆話^上〕一龍紋の儀ニ付、御尋之趣申達候得者、曾而旗紋などに龍を付申候儀、憚候義相覺不申候、決而俗説と奉存候、追而其旨書付差上可申旨、有増に被申聞候、

〔海人藻芥〕家々文事、各當家ノ文ヲ車輿ノ網代以下ニ付之、或杉障子ノ縁ノ繪、或ハ唐紙障子ノ文等、一切ノ家中家具ノ蒔繪以下ニ、皆家ノ紋ヲ付ル也、

〔羽倉考^二〕菊紋等愚考六條

凡衣服器物等ニ紋ヲ附ル事ハ、至リテ近世ノ事ナルベシ、一條院以來、小袖ヲ著スト雖、紋ノ事ハ記録等ニイマダ見及バズ、タゞ車ノ紋アリト雖、家ニ依テ定マリアル事ニハ非ズ、建久ノ比ヨリ、陣屋ノ幕ニ紋ヲ附テ、各其陣屋ノ標トシ、後世ニ至リテ、小袖ナドニモ之ヲ用フルナルベシ、仍テ近世マデモ、猶幕ノ紋ト稱セララルニヤ、塵添搥囊抄ニ、武士ノ幕ノ紋ノ字ト記セリ、此抄ノ比マデモ、幕ヨリ外ノ物ニハ附ザルト見エタリ、又袍直衣以上ノ綾ニ、草木虫鳥ナドヲ織事モ、上代ニハ定マリタル事ナキ故歟、令式等ニハ不載、中古以來、如此ノ事マデモ、流例ニ從フヲ故實ト爲來ル故ニ、攝籙ノ袍ハ雲立涌、太閤ノ袍ハ雲鶴ナド、定マリテ、文様ノ大體員數モ極リアル様ニ爲リ來レドモ、必ズ此外ハ袍ノ紋ニ用キズト云ニハアラザルベシ、然シテ中古以來ノ諸抄、文ノ形狀及用フル人、用フル時ナドヲバ記シタレドモ、本ヨリ先例ニ從フバカリノ事ナレバ、何ナル義ヲ以テ、此紋ヲ用フルナド云事ハ、百分ノ一二ニ不過、仍テ僻案而已ニシテ、所見ナシ、其初ヲ思フニ、